# （1） 地域総合研究センターの活動内容（2006.4～2007.3）

松本大学・地域総合研究センターは、地域社会と大学を結び、地域の課題に取り組むとともに、大学の教育・研究活動をより意義あるものにする様々な活動をおこなっている。

地域総合研究センターの活動は、おおむね次の４つに分類することができる。

① 地域活性化のために研究センターが独自に企画立案して研究を進めている活動
② 地域社会から大学（代表者としての学長を含む）に対して協力依頼があったものをセンター研究員である本学教員（あるいは教員グループ）が引き受けて行なっている活動
③ 地域社会から地域総合研究センターに対して協力依頼があったものに対して、センター研究員である本学教員(あるいは教員グループ）が引き受けて行なっている活動
④ 地域社会から、研究分野からみて妥当と思われる教員個人に対して協力依頼があったもののを、その教員がセンターに持ち込んで行なっている活動

2007度は人間健康学部という理系の新学部もでき、地域企業を含めた共同研究も進展する可能性を秘めている。さらに文部科学省の「地域共同研究支援」事業にも応募することが予想されるので、このセンターの活動範囲も大きく飛躍する可能性がでてくる。この意味では、センターの活動形態も変化する時期に来ている。

１）センター運営委員の構成

今年度のセンター運営委員を紹介しておこう。学内運営委員は中野和朗（委員長)、白戸洋（主任研究員)、住吉廣行、木村晴壽、木内勝義、柳沢聡子、外部からの研究員として運営委員会に参加する玉井袈裟男、今井朗子、岩原正典、建石繁明、事務担当として松田千壽子、腰原季都子、合計12名である。

尚、当センターの研究員は、松本大学並びに松本大学松商短期大学部の専任教員全員である。

２）センター会議報告

平成18年度　地域総合研究センター会議　2006.5.29

・昨年度の実施状況と今年度の活動方針
・地域総合研究第６号の発刊について

３）活動内容（詳細は後掲）

将来への大きな可能性を内包する中で、ここでは、2006年4月より2007年3月までの活動について以下の項目に関する報告を行うものとする。活動内容には２種類あって、一つはこれまでの活動を継続するもの、もう一つは今年度新規に始めた内容である。

ａ）継続的活動

１　地域づくり・まちづくりに関する講演会などの開催

・「人にやる気・村に活気・地域づくり」学習会　Part4
　　「ふるさとの『水と土と人』に思いを寄せて」
・オープン・カレッジ「女性起業家に学ぶ－自己表現と自分おこし－」

2　地域づくりの事業の実施と支援
・山形村の地域福祉経営に関する事業
・まつもとユニバーサルデザインネットワーク研究会への参加
・コミュニティ・ビジネスの支援・展開
・松本市中心市街地活性化事業
3　大学が主催する人づくりのための学習活動の実施
・生活記録による世代間交流（三郷村及木老人クラブとの交流学習会）
・キャリアスクール（一念発起の会）
・勿体無いをそのままにしない会
4　地域における学習事業への参画・支援・研究
・各地区公民館活動への参画
5　地域社会への囲碁の普及と世代間交流の活性化
・大学が主催する囲碁の普及に関する活動
・地域社会と協力して営む活動　－会場の提供と運営への協力－

b）新規の活動
1　地域づくり・まちづくりに関する講演会などの開催
・まちづくり公開講座「『富士宮やきそば』による市街地活性化の裏舞台」
2　ユネスコアジア太平洋コミュニティ学習センター・松本ワークショップの主催
3　地域づくりの事業の実施と支援
・「信州フードパーク」プロジェクト
・松本駅西口まちづくり事業

## 1．地域づくり・まちづくりに関する講演会などの開催

ここでは、継続・新規を含めて主な活動内容の概要を紹介する。

1）　「人にやる気・村に活気・地域づくり」学習会 Part4　　主担当：玉井袈裟男研究員
「ふるさとの『水と土と人』に思いを寄せて」

「人にやる気・村に活気・地域づくり」学習会は、自らの地域の課題を捉え、地域の個性や風土を生かして、知恵を絞って地域づくりに取り組んでいる地域とそれを担う人々に学び、実践につなげていこうという趣旨で2003年度よりスタートした。学習会は、各地で先進的に取り組まれている地域づくりの実践について、地域づくりを担うキーマンを招いての講演会と実際の取り組みを現地で学ぶ研修ツアーによって実施されてきた。これまで、岐阜県清見村の行政が主導するむらづくり(2003年度)、滋賀県犬上郡甲良町のグランドワーク方式によって行われる集落からのまちづくり(2004年度)、兵庫県豊岡市周辺の農山村レストランのモデルと女性グループ活動（2005年度)、をテーマとして実施してきた。

2006年度は、「ふるさとの『水と土と人』に思いを寄せて」をテーマとして、7月6日に講演会、9月1～2日に三重県多気郡へ研修ツアーを行った。

講演会では、三重県で水土里ネット立梅用水の事務局長の高橋幸照氏を迎え、玉井袈裟男研究員が聞き手になって、事業の概要や地域づくりへの教訓などについて学んだ。講演会には学生を含めて約80名が参加して活発な質疑応答も行なわれた。また、研修ツアーには21名の参加者があり、玉井研究員がインストラクターを務め、三重県多気郡多気町の水土里ネット立梅用水、農業法人せいわの里「まめや」などを視察した。講演と研修旅行の詳細な内容については、報告を掲載している。

2）　オープン・カレッジ　「女性起業家に学ぶ」　　主担当：今井朗子研究員

地域では多くの元気な女性たちが地域づくりの中心となって活躍しており、地域づくりにおいて女性がいきいきと活躍することは最も重要な鍵である。本研究センターでは、女性たちの起業事例を語っていただき、共生社会の女性による地域づくりの可能性について考えることを目的として、女性たちから学び、女性の地域づくりのネットワークを創っていこうという趣旨で、オープン・カレッジ「女性起業家に学ぶ」として、パネルディスカッション形式で平成16年より開催してきた。本年度は第3回目にあたり、本学の大学祭（2006年10月15日）にあわせて、本研究センター研究員の今井朗子氏のコーディネートの下で講演会を開催した。テーマは「女性起業家に学ぶ～自分表現と自分おこし」と題して、有限会社　フィルターインク代表の犬飼香織氏を講師に迎え、第一部では「今の私にできること～私の道は私が創る　私のペースで　そして　私らしく」としてご自身の体験談を通じて女性の起業について、第二部として「生活に生かす色彩心理」として色彩心理についてそれぞれ話していただいた。なお、講演の詳細な内容については、報告を掲載している。

3）　まちづくり公開講座「『富士宮やきそば』による市街地活性化の裏舞台」
担当：中沢朋代研究員

地域づくりでは、食も重要な役割を持っている。その食に注目して、やきそばをテーマに市街地を活性化した静岡県富士宮市の事例をとりあげて、まちづくり公開講座「『富士宮やきそば』による市街地活性化の裏舞台」を2006年12月18日に開催した。講演会には約60人が参加し、NPO法人まちづくりトップランナー富士宮本部代表理事、有限会社インシュランスブレイン代表取締役である、富士宮やきそば学会長の渡邊英彦氏を迎え、やきそばを中核としてまちづくりをどう展開してきたかについて熱心なお話をして頂いた。なお講演に先立って学生、教員の協力で実際のやきそばを作り、試食をして実際の味を体験する機会を作った。これについても報告書を後掲。

## 2　ユネスコアジア太平洋コミュニティ学習センター・松本ワークショップの主催

2005年度インドネシアのバンドンで開催された、ユネスコ主催のアジア地域ワークショップに参加した柳澤聡子専任講師の講演が聴衆の興味を引き、今年度は松本で開催したいということになった。本研究センターとしては、初の国際協力によるビッグなイベントとなった（詳細は、後掲の報告書参照）。

## 3 地域づくりの事業の実施と支援

行政に依存せず、自ら地域を創造していくために、行政と住民の協働や住民による主体的なまちづくりへの取り組みが各地で展開されているが、地域総合研究センターは、地域づくりに関わる研究を行うとともに、地域のニーズに応え実際に参画しながら、地域づくりを支援することを活動の重要な柱に据えている。

2006年度は以下のような地域づくりの事業の実施と支援をおこなった。

### 1)　山形村の地域福祉経営に関する事業　　主担当：白戸　洋主任研究員

山形村・山形村社会福祉協議会と松本大学は、2002年度から山形村の地域福祉経営についての共同事業を実施している。2006年度は、多機能型デイサービスセンター（宅幼老所）の「コミュニティハウス・建部の里」が4月に開設され、コーディネーターとして社会福祉実習（担当：白戸　洋・尻無浜博幸）の学生が派遣され、協働事業を展開している。特に、過去3年間に亘って「むかごプロジェクト」に取り組んできたコミュニティ・ビジネスを展開する「ぽぽねっと事業」では、今年度新たに「そば」についての取り組みを開始し、「建部の里」の敷地にそばを試験栽培し、収穫後は地域との交流に活用したり、そば粉として販売を行った。また2004年度に開始された住民が参画して地域の未来や地域福祉のあり方を考える「創ろうやまがた・プロジェクトＹ」については、今年度は地域防災の視点から取り組んだ。本研究センターはこうした事業に関わり、支援している。さらに2005年度から取り組んでいる「希望の旅事業」では、今年度も障がい者を対象とした旅行を日帰り（上越）と１泊2日（愛知県）のプログラムを大学のバスを使用して学生が企画・運営して実施した。

### 2)　ユニバーサルデザイン（ＵＤ）の普及活動　　主担当：住吉広行・清水聡子研究員

まつもとユニバーサルデザインネットワーク研究会への協力・協働

今年度も本学研究員（住吉廣行）が研究会会長に任命され、ＵＤの考え方の普及など、企業を中心とした会員の皆さんとともに、その運営に協力した。会の構成員である松本大学からは、住吉会長のほか清水聡子助教授も会員として活動している。

2006年度は、第３回ながのユニバーサルデザイン松本大会を開催し、ばばこういち氏を講師に招いた講演会の他に、小学生を含むユニバーサルデザイン・アイデアコンテストの入賞者への表彰式を行った。大会以外での日常活動においても、本学からは尻無浜博幸、廣瀬　豊の二氏が講師を務めるなど、理論的な面からの支援も十分になされた。

### 3)　コミュニティ・ビジネスの普及活動　　主担当：白戸　洋主任研究員

地域総合研究センターでは、2004年度よりコミュニティの課題を小さなビジネスを興すことで解決していく、コミュニティ・ビジネスを地域づくりの重要な鍵として位置づけ、その普及や支援に取り組んでいる。コミュニティ・ビジネスは、身近な地域で住民が主体的に地域を創造していくための有効な手段であり、学生が地域において実践的に学ぶ機会と捉えている。2005年9月に学内に

設置した「地域づくり考房ゆめ」と連携して、コミュニティ・ビジネスについて研究・実践に取り組んでいる。

① コミュニティ・ビジネスの支援・普及・研究活動

地域総合研究センターでは過去コミュニティ・ビジネスに取り組み、松本いっぽんネギやむかごの特産化などに貢献してきた。地域で実践されている実際の事業に対しては、山形村の「ぽぽねっと事業」及びNPO法人「人にやさしい街づくり推進協会」による人力自転車タクシーの「ベロタクシーによるタウンモビリティ事業」への協力などを行なってきている。

コミュニティ・ビジネスに関する普及活動としては、木祖村商工会の研修等における講演会に教員を講師として派遣してきた。さらにコミュニティ・ビジネスをテーマとした教育活動を展開し、例えば、観光ホスピタリティ学科のゼミナール（白戸洋担当）のアウトキャンパス・スタディの一環として、地元新村の米の特産化プロジェクトとして精米の販売や加工の検討を行っっている。またこれらの活動に基づいて理論面からの研究も行ない、その成果を長野県生涯学習センター、小諸市農業委員会などによる研修会で発表した。

② コミュニティ・ビジネスを通じた街づくりの実践への参画

地域総合研究センターではコミュニティ・ビジネスを中核とした、以下のような街づくりの実践活動に参画している。

ア：松本駅西口まちづくり事業

松本駅の改築にあわせた西口駅前ひろばの整備と道路整備事業によって、住民の三分の一が地区外へ移転した松本駅西口地域を対象に、昨年度に引き続き地域住民と共に街づくりに取り組んだ。2004年度の総合経営学部の地域行政コースの演習のアウトキャンパス・スタディを実施したことを契機にして、立ち退き等によってコミュニティの崩壊の危機に直面した高齢化が進む巾上西町会において、「歩いて暮らせる街」や「アルプスの景観を守る街」を理念とした街づくりの活動に、学生・教員が参画している。

本年度は、月一回の朝市の開催、下町まつりの開催を支援した他、学生が参加した電動車いすによるバリアフリー調査などに取り組んだ。11月には駅前ひろばに高齢者の溜り場、生甲斐づくりの仕事の場として、拠点施設である「いばらん亭」が竣工したことに伴い、2007年春の蕎麦屋開業を目指して準備が進められたが、これを支援した。また、12月からは景観と地域づくりに関する連続の学習会が5回にわたり開催され学生が企画運営を担った。

これら本研究センターの「町会と大学が連携した街づくり」の活動には、コミュニティ・ビジネスをテーマとした演習（担当：白戸洋）の一環として学生が関与しており、観光ホスピタリティ学科における社会福祉（担当：尻無浜博幸）の現場実習の一つとして学生がコーディネータとして派遣されてもいる。

イ：松本市中心市街地活性化事業

土地区画整理事業など一連の再開発事業が完成した松本市中心商店街は、道路拡張による立ち退きや移転、人の流れの変化、昨今の不況などに直面している。2005年にまちづくりの拠点として、「ふらっとプラザ」が松本商工会議所と松本市、本学が連携して開設されたが、まちづくりに関心のある商業者や市民、学生などが集まって、手づくり商品のレンタルボックスショップやインフォメーションセンターとして機能している。この「ふらっとプラザ」の活動への本研究センターの支援の形態は、観光ホスピタリティ学科の演習（担当：白戸洋、柳澤聡子）の一環として、学生が運営・企画に携わるというものである。とくに本年度は松本市街のテーマ別ガイドマップを「松本タウンコンパス」としてホームページ上に開設した。多目的トイレの紹介を行うバリアフリーサイト、子連れの母親を対象とした子育て支援サイト、井戸の紹介をした自然サイトなどで構成されている。この作業は、松本商工会議所やユニバーサルデザインコミュニティ研究会（ユニコス）、NPO法人信州ソフトウェアー協会など、地域からの支援を受けながらも、本学学生が行った。

また人材養成とネットワークづくりを目指し、商工会議所が開催した学習会「何かやりたい人のネットワーク」に数多くの学生や教員が参加してまちづくりの実践活動に取り組んだ。

4) その他

以上の事業に加えて、グリーン・ツーリズムに関わる事業、農業を特産品の開発で活性化する事業、ＮＰＯなどをネットワーク化し、市民主体の地域づくりを目指す「アルプスフロント懇談会」など、様々な地域・分野で地域づくりの実践活動へ参画し、それらを踏まえた研究を実施した。
また長野県内の地域の食文化を掘り起こし、その継承を図るとともに、地域づくりに結び付けていくことを趣旨とした「信州フードパーク」プロジェクトについては、総合経営学部、松商短期大学部において、「地域と食文化」「食と文化」（担当：福島明美）などの授業を通じて、アウトキャンパス・スタディなども取り入れ、学生が地域の食文化を直接学ぶ機会をつくった。さらに、観光ホスピタリティ学科の教員が中心となって、地元新村の米の特産化プロジェクトを立ち上げ、本年度は米の試験販売などを行なったが、今後米や伝統野菜を使った特産品作りに取り組む予定である。

ゼミナール・演習や授業のテーマが、何らかの形で「地域づくり」に関連しているならば、それらは本研究センターの研究テーマとなる可能性は高く、センターの守備範囲ももっと広くなるであろう。

## 4　地域総合研究センターが主催する人づくりのための学習活動の実施

地域総合研究センターでは、2002年度より玉井研究員及び岩原研究員を中心として、地域の課題を解決する人づくりとネットワーク作り、さらには特に高齢者の知恵の活用を目指し、学習活動を企画・運営している。2006年度においても、「三郷及木老人クラブとの交流学習会」、「キャリアスクール（一念発起の会）」、「勿体無いをそのままにしない会」に取り組んだ。

「三郷及木老人クラブとの交流学習会」は、昭和30年の農村での生活について、交流学習会を通じて記録を作成している。記録作りに基づき、学習会で見直された農村における生活文化や知恵をその成果を多くの人々に伝えるために、季節の行事を再現したり、「国営アルプスあずみの公園」にて毎週週末に安曇野の歴史と生活文化を紙芝居として、老人クラブの方々を中心にボランティアとして「実演」している。

## 5　地域における学習事業への参画・支援

地域総合研究センターでは、公民館活動などの地域における学習活動を地域づくりの重要な基盤として、県下の公民館などの社会教育機関と連携してきた。2006年度においても様々な学習活動に取り組み、昨年度から引き続き、地元の新村地区公民館の活動に年間を通じて学生、教職員が参画した他、松本市北部公民館の中高校生が中心となる異世代交流事業「街角コンサート」にも学生・教員が参加した。さらに松本市南部公民館との共催事業である本センター研究員（増尾均）のコーディネートによる「新聞をのみこむ講座」、本センター研究員（白戸洋）が総合コーディネーターとして参加している塩尻市塩尻東公民館の成人講座「女と男きらめき教室」などに加え、多くの公民館や社会教育施設において社会教育の推進に関わる講演の講師や講座のコーディネーターとして教員を派遣している（詳細は松本大学アニュアルレポートを参照のこと）。また、地元の新村公民館の事業には、日常的に協力し（新村情報交換会が、月に一度定期的に開催され、さまざまな課題について意見交換されている）、学生が視聴覚委員や館報編集委員をつとめるなど、大学として積極的に参加している。また、2006年8月には、本学の公民館との連携の成果として、前述のユネスコの国際シンポジウムが開催された。

## 6　地域社会への囲碁の普及と世代間交流の活性化　　主担当：峯岸芳夫・住吉広行

この分野では、3つの形態でセンターが関わった活動を展開している。

1) 大学が主催する囲碁の普及に関する活動

①　第5回松本大学「ヒカルの碁」少年少女囲碁大会の開催

大学が独自に主催して開催している企画がある。一つは一世を風靡したマンガ「ヒカルの碁」に因んで行われている小中学生が対象の少年少女囲碁大会である。子供のころから囲碁に親しみ、高齢者との交流もできるようにと、底辺の拡大を目指して開いている。2006年度で第5回目を迎えた。日本棋院長野県本部中信地区本部の支援も受けて行われている。中部総本部棋士加藤祐輝五段を迎え、優秀成績を収めた参加者に指導後の提供を行い、棋力の向上に取り組んでいる。マンガの連載終了で参加者数は減少傾向にあるが、一つには育った子供たちが大人に混じって互角にあるいはそれ以上に戦うようになったからでもある。その一つの象徴が、大学選手権や高校選手権では、長野県は強い県として認識され、優勝や上位入賞の常連になってきていることにみられる。本研究センターの活動が、長野県特に中信地区の囲碁界に果たしている役割が、少なくとも囲碁愛好家の間で、ようやく評価されるようになってきたと言える。

②　松本大学オープン囲碁教室の開催

もう一つの独自企画が「松本大学オープン囲碁教室」の開催である。地域住民の方々を対象に毎週木曜日の夜、本学峯岸芳夫講師を代表とする、囲碁普及ボランティアグループを結成して指導に当たっている。このグループの中には、サポータ教員である倉科陽子、中野静子の両氏も入っており、本学の学生も参画している。

2) 地域社会と協力して営む活動　－会場の提供と運営への協力－

①空穂記念館主催「一就塾」への協力

新村地区に隣接する和田地区に建つ「窪田空穂記念館」が、日本棋院東京本部棋士・藤沢一就八段やキッセイ薬品の神沢邦雄会長、木祖小学校・山下同教諭などの協力を得て実施している囲碁普及活動「一就塾」に峯岸や住吉が協力している。

②長野県高等学校文化連盟囲碁部会主催の行事への協力

次の二つの県大会に、会場を貸すと同時にその運営にも協力している。また、本学の紹介を兼ねて、県内の進学校の参加者も多く、本学のパンフレットも配布している。

第３０回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会・長野県大会並びに段級位認定大会

平成１８年度高等学校囲碁新人戦長野県大会

③長野県学校囲碁連盟主催の行事への協力

小中学生囲碁団体戦長野県代表選抜大会に対して、会場を提供すると同時に、その運営にも協力した。

④テレビ松本三冠囲碁大会への協力

地元ケーブルテレビ局が開催する囲碁大会に対して、会場を提供するとともに、大会運営に全面的協力を行っている。今年度は第5回目の節目の大会ということもあり、人気女流棋士、梅沢由香里氏を招いての盛大な大会となった。松本大学の協力がなければ開催できないとまで言われるほどの実績を持っている。

3) 地域社会と協力して営む活動　―運営への協力―

地元紙が主催する市民タイムス杯中信地区囲碁大会に対して、競技委員長(住吉)を派遣し、スイス方式の指導などその運営に協力している。

## （2）地域総合研究センターの活動報告集（2006.4～2007.3）

今回は「1．地域づくり・まちづくりに関する講演会などの開催」の1)、2)、3)及び「2．ユネスコアジア太平洋コミュニティ学習センター・松本ワークショップの主催」の実績を詳報する。

**●地域づくり・まちづくりに関する講演会などの開催報告**

1)「人にやる気・村に活気・地域づくり」学習会　Part 4

・講演会

「ふるさとの『水と土と人』に思いを寄せて」

・ 研修旅行

「水土里ネット立梅用水を訪ねて」

三重県多気郡多気町水土里ネット立梅用水

2) オープン・カレッジ

・講演会報告

「女性起業家に学ぶ　－自己表現と自分おこし－」

3) まちづくり公開講座

「富士宮やきそば」による市街活性化の裏舞台

**●コミュニティ学習センターネットワークおよび連携を通した地域開発に関する**
**アジア太平洋地域ワークショップの報告**